

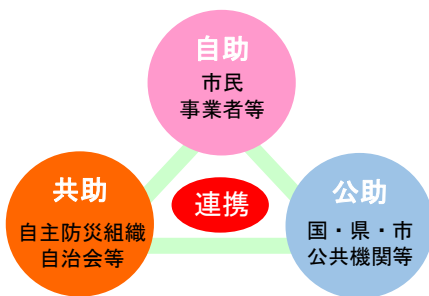
地震に備えて！

日本は世界でも有数の地震国であり、過去から現在まで多くの地震災害を経験してきました。政府の地震調査委員会の報告によると、本市を含む南関東で今後 30 年以内にマグニチュード 7 程度の地震が発生する確率は、約 70%といわれています。

このリーフレットは、地震に関する情報や市民の皆さんに備えていただきたい事項について簡単にまとめました。

正しい知識を基に適切な行動をとる事が被害を最小限に抑える方法ですので、参考にしてください。

1. 防災に関する基本知識



自助・共助・公助の連携

大規模な地震発生時には、本市でも建物の倒壊、崖崩れ、火災等が同時に発生することが予想されます。このような状況下では、消防や警察等行政の力だけでは対応することが難しいため、地域の皆さんの力が必要となります。

平成 7 年に発生した阪神淡路大震災では、倒壊した建物から救出された方の約 9 割が、家族や隣近所の方に救出されたといわれています。

地震の被害を最小限に抑えるためには、自助・共助・公助の連携した取り組みが必要です。

自助・・・自分の命は自分で守る。

共助・・・自分たちの地域は地域のみんで守る。

公助・・・公共機関等による応急・復旧活動

自主防災組織とは・・・隣近所同士で助け合うという精神のもと、自発的に組織された防災組織、日頃から防災啓発活動や訓練を実施しています。自分の地域に自主防災組織があるか確認しましょう。

2. 地震に備える

本市においては、海岸線がありませんので、津波被害(参考：千葉県津波浸水予想図)は想定されていません。このため、重点をおくべき対策としては、家屋の倒壊や家具等の転倒による圧死や負傷です。




建物の耐震化・・・昭和 56 年に建物に関する法律である「建築基準法」が改正されました。56 年以前の建物は、現在の建物に比べて耐震性が劣っている場合があります。まずは耐震診断をしましょう。(市では耐震診断に対する助成制度があります。)

家具の転倒防止・・・阪神淡路大震災の死亡原因の約 80%が窒息・圧死となっています。またマンションの高層階等は地震の揺れが増幅されることもあります。まずは寝室から転倒防止対策を始めましょう。



3. 地震が起きたら

地震が発生した時の主な行動を示しています。あわてず、落ち着いて行動ができるよう覚えておきましょう。

時間経過	→		
	緊急地震速報	地震発生・直後	～数分後
ポイント	あわてずに できる行動を！	命を守る！ (とにかく身を守る)	2次災害を防ぐ！ (落ち着いてから行動を)
		 <p>提供 効果的な防災訓練と防災啓発提唱会議</p>	
皆さんが とるべき 行動	<ul style="list-style-type: none"> 机の下などの安全な場所に移動する。 大きな声で近くの人に知らせる。 あわてて外に飛び出さない。その場で火を消せる場合は火の始末、ただし無理に火を消そうとするのは危険。 	<p>シェイクアウトを行う(下記参照)</p> <p>揺れが収まったら</p> <ul style="list-style-type: none"> 火の始末 靴をはきガラスの破片等から足を保護 ドアや窓を開けて逃げ道の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 余震に注意 同居者の安全を確認 建物の安全を確認 ガス漏れや漏電に注意 ラジオ等で情報収集
説明	<p>最大震度5強以上の地震が想定される場合、テレビ・ラジオ、携帯電話等から緊急地震速報が発表される。</p> <p>※震源に近い地域では、緊急地震速報が揺れに間に合わないことがある。</p>	<p>●シェイクアウトとは</p> <ol style="list-style-type: none"> ドロップ(まず低く) 姿勢を低く！ カバー(頭を守り) 体・頭を守る！ ホールド・オン(動かない) 揺れが収まるまで動かない！ 	<ul style="list-style-type: none"> がけ崩れの危険が予想される地域は安全な場所に避難する。

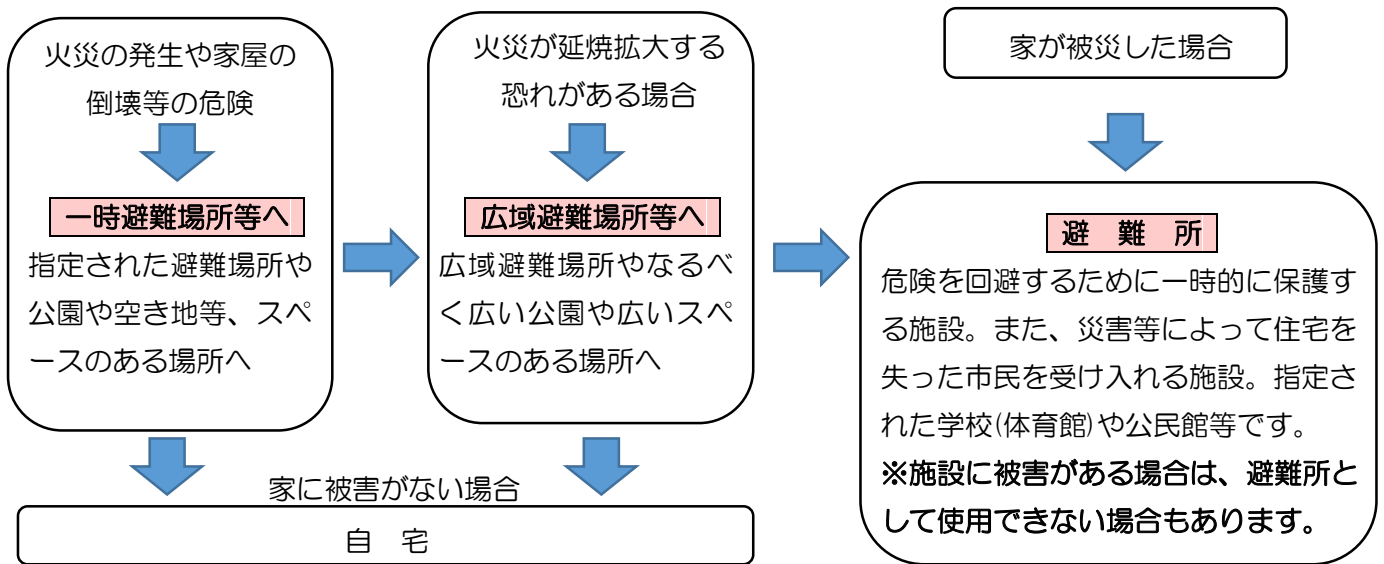
時間経過	→	
	～数時間後	～3日くらい
ポイント	まちを守る！(近所は大丈夫か)	生活を守る！
説明	<ul style="list-style-type: none"> 家屋の倒壊や火災等を発見したら、通報すると共に、隣近所で協力して消火活動や救出活動を実施する。 火災は地震直後に発生するとは限らない。特に停電から復旧した時は注意が必要。 一人暮らしの高齢者等、要配慮者がいる世帯には声をかけ安否を確認する。 家屋の倒壊や火災等の危険があれば避難する。自宅が安全が確保できる方は、自宅に留まる。 家族の安否確認方法として災害時伝言ダイヤルを覚えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> 電気、水道、ガスがストップ 災害発生から3日程度は、被災地外からの応援は期待できない。自宅にある水や食料などでしのぐ。 断水に伴うトイレ対策、簡易トイレなどでしのぐ。(※平時に準備をしておく)

4. 避難の心得

地震発生後は、建物の倒壊や火災から身を守るため、一時避難場所(学校のグラウンド)や公園等スペースのある場所で一時的に身の安全を確保します。火災が延焼拡大するおそれがある場合は、より広い広域避難場所等なるべく広い場所に避難します。自宅で安全が確保できる方は、自宅に戻り、被災されて自宅に戻れない方は避難所(学校の体育館等)に避難します。防災マップ等で事前に確認しておきましょう。

なお、発災後は、建物の安全性が確認できるまでは避難所に入ることはできません。

また、避難する際は、停電回復後の通電火災や漏電による火災の発生を防ぐため電気のブレーカーを切ってください。またガスも同様に元栓を閉めます。



一時避難場所・・・火災や家屋の倒壊から一時的に身の安全を確保する場所（スペース）。

広域避難場所・・・火災が拡大した場合に、避難する場所（スペース）。

避難所・・・危険を回避するために一時的に保護する施設。また、災害等によって住宅を失った市民を受け入れる施設。(学校の体育館や公民館等の建物)

5. 家庭での備えについて

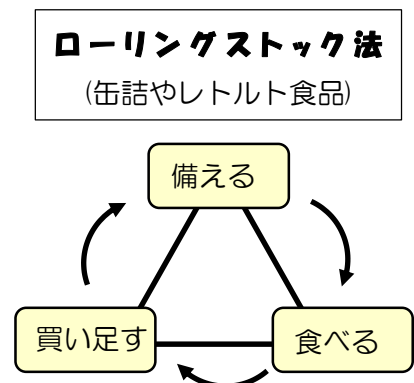
大規模災害が発生すると道路が寸断されることなどにより、物資の輸送に支障がでます。また、首都直下地震が発生した場合には、東京方面の被害が甚大なものになると予想され、支援物資などが被害の大きい地域に集中することが考えられます。

この場合、市が備蓄する物資には限りがあるため、各家庭で最低3日以上、出来れば7日間分以上の水・食料などを備蓄し災害に備えていただくようお願いします。(飲料水の目安は1人1日3L)

備蓄に関しては、アルファ化米など防災用食料を用意することも一つの方法ですが、日常生活で使う食材を多めに常備して使いながら、いざという時に備えるローリングストック法がおすすめです。

<参考：主な非常持ち出し品>

食料品	飲料水	貴重品
懐中電灯	携帯ラジオ	服用薬
予備電池	雨具や防寒着	衣類
上履き・スリッパ	ティッシュ	筆記用具
タオル・洗面具	生理用品等	簡易毛布・座布団



6. 市の主な減災対策

●防災知識の普及・啓発

防災関係機関と連携した総合防災訓練や、自治会や自主防災組織を対象とした個別の防災訓練を行っています。また、啓発冊子などを作成・配布して防災知識の普及や啓発を行っています。



●自主防災組織の結成促進

自主防災組織の結成及び活動費に対して補助を行い、共助の取り組みを推進しています。

●防災倉庫の整備

市内小・中学校に防災倉庫を整備(34カ所)し、発電機、救助用資機材、仮設トイレ、毛布や食料等を備蓄しています。

●給水体制の整備

断水に備えて市内小・中学校に災害用井戸を整備(34カ所)している他、個人で井戸を所有する方に対し、災害時協力井戸への登録を推進しています。応急給水を受けるために必要なポリタンク・給水袋の用意や、災害用井戸等の設置場所を確認しておきましょう。(なお、災害用井戸は、あくまで井戸水であるため、水道法による水質基準を満たしていない井戸があります。)

●災害時協力協定の締結

災害時には、行政だけの対応にもおのずと限界があることから、防災上重要な企業、各種団体と災害時の協力協定を締結し、災害に備えた体制づくりを進めています。

●避難行動要支援者対策

高齢者、障害者等のうち、自ら避難することが困難な方で、円滑に避難するために特に支援を要する方(以下「避難行動要支援者」といいます。)の把握に努め、対象者の名簿を作成すると共に、自治会等の協力を得て、安否確認や避難行動の支援ができるよう、平常時から名簿を共有し支援体制の整備に努めています。(各自治会・自主防災組織等の皆様には、ご協力をお願いします。)

7. 情報を入手するためには

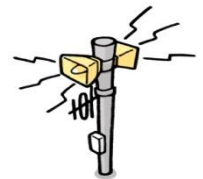
●情報収集手段を確認しましょう！

市からの災害情報は、防災行政用無線や広報車による放送のほか、携帯電話やパソコンによる、やちよ情報メール、ツイッター等でも配信します。やちよ情報メールに登録しましょう。

●防災無線・広報車による広報

●自動電話応答サービス ※通話料無料

0120-970-911 (防災無線の放送内容が確認できます。)



●やちよ情報メール

防災情報等を登録していただいた携帯電話やパソコンのメールアドレスへ電子メールで配信します。

<登録方法>

- 右記の登録用二次元コードを携帯電話のカメラ(バーコードリーダー)で読み取るか「yachiyo@sg-m.jp」に空メールを送信してください。

※携帯電話で迷惑メール対策をされている方は、上記のメール及びドメイン名

「@city.yachiyo.chiba.jp」からのメールを受け取れるように設定してください。

- 案内メールが自動的に配信されますので、確認して登録してください。

●その他

ホームページ、ツイッター等にも情報を掲載し、緊急の場合は緊急速報メールでもお知らせします。

◆登録用二次元コード

